



市民自治をめざす 2009.4.1 No. 47 1000人の会 NEWS

発行 市民自治をめざす1000人の会 住所 〒271-0092 千葉県松戸市松戸1879-24 ほくとビル5F
Tel&Fax 047-360-6064 E-mail shinji-1000party@msj.biglobe.ne.jp
郵便振替口座 00130-0-76000 http://www.5b.biglobe.ne.jp/~matsudo

松戸市議会に異変～議案否決・修正案可決

松戸市議会に異変がおきました。3月定例会、2月25日の午後に開催された市立病院建設検討特別委員会と27日の本会議。異変の内容は、市長が提案した市立病院に関する2回目の用地買収計画に対して、病院建設の基本構想・基本計画等が提出されない中で、用地買収だけが先行することに「異議あり」と提案された議案の修正をおこなって、市長提案を否決したのです。

■意思決定機関の機能が作動した！

松戸市議会もやっと、市長提案に納得がいかないときは「ノー」と言えるあたりまえの議会になりました。議会は、市長提案の議案に対して、議会のしっかりした意思決定をする場に他なりません。ところが松戸市議会は、少なくとも川井市長になってから最近の副市長の選出過程までは、保守系や公明党等の市長支援グループは、全ての議案に「やむなく賛成」と本来の意思決定機関の役割を放棄してきました。

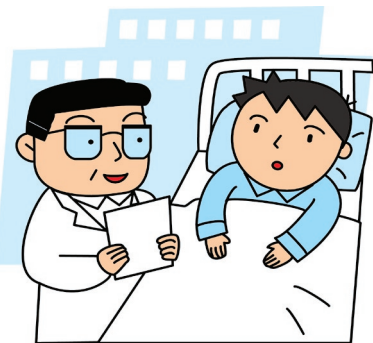
ところが、今回の病院用地取得に対しては、状況が大きく変わりだしました。特別委員会が設置されてから10年ほどになりますが、前半は市長と議会の連携は密接でした。前回の松戸市長選の「公開討論会」の際、川井市長が議会と相談もしないで上本郷の「現地建替え案」を言い出してから、歯車がきしみだしました。昨年9月になって市長は、運動公園内案も現地建替えも困難と建て替えを白紙撤回することを明らかにしたのです。公立病院の建設断念の意思とも受け止められました。怒った議会は、『特別決議』を提出し、早期の市立病院建設を求めたのです。

■なぜ、駆け込みの病院用地決定か？

川井市長は昨年12月議会で、これまで俎上に上がったこともない「紙敷土地区画整理地内」の66街区(1.1

畓)の購入を突然提案してきたのです。この顛末は、前号で報告しました。ほとんどの議員が多くの問題点を提案し、納得できないと発言しながら、採決では承認(継続審議にすべきだった)。再び『付帯決議』を提出し、基本構想・基本計画もない中で用地買収には問題があること。今回は「有力な候補地」として承認するとしたのです。その際の質疑でも、市長は、66街区以外の購入予定はないと発言していました。駆け込みの用地買収行動の真相は何か、疑問が残ります。

それにもかかわらず、3月20日になって(3月23日から3月定例会はスタート)65街区(1,007坪、6億円限度の購入)を提案してきたのです。イエスマンだった松戸市議会も、さすがに怒りました。その結果が、用地取得・6億円の債務負担行為の提案を削除する修正案を多数の委員(11名中8名の連名で)で提出し、可決。27日の本会議では、46名中38名の賛成で修正案を可決させたのです。松戸市議会の異変(普通の議会)の幕開けです。来年の市長選に向けた前哨戦でしょうか。



出前講座「生活保護制度の現状と松戸市の現状」

▼日時／5月15日(金、予定)午後6時30分から

▼会場／ほくとビル4F会議室(松戸商工会議所ビル隣り)

▼講師／松戸市福祉事務所職員

▼主催／1000人の会(360-6064)

「派遣労働者の首切り」が社会問題になり、セーフティネットの不備の中で、生活保護を求める労働者が多くなっています。生活保護制度の現状と現状を学びます。

松戸市と関さんの森との協働で道路づくりを！

去る2月5日、松戸市(川井市長)と地権者(関さん)との間で基本合意書が取り交わされ、関さんの森の道路問題は次のステップに進み出しました。これまで、関さんの森の里山風景を守るために、多くの皆さまのご協力をいただきありがとうございました。

■寒風の中でも署名活動

10月から始まり、1月まで取り組まれた「関さんの森道路案」賛同署名活動は、寒さが厳しくなる中でも、駅頭や街頭での署名集めにたくさんの皆様のご参加をいただきました。多くの賛同署名を集めると共に、チラシを配り松戸市中に「関さんの森道路問題」を広め、世論を動かす力となりました。

関さんの森道路問題は、都市計画道路として事業認可が下りていました。しかも松戸市が昨年2月に土地収用法の適用を決めて、8月には強制立ち入り調査が行われました。そのままでは裁判闘争、そして裁判中の強制収用の可能性があります。

■合意成立は世論の力

今回の、松戸市と地権者との合意が成立するにあたっては、世論の力が大きかったと思います。合意書では、地権者は道路建設に協力するが、屋敷内の里山風景を保全するために迂回した道路にする。但し、都市計画道路の変更はしないで新設の松戸市道とする。また、森のシンボル「ケンポナシの木」を迂回してとお願いしてきたのですが、松戸市の要望もありケンポナシの内側を通るルートで検討されています。220年を越える古木であり、枯れてしまわないように移植も検討されているところです。同じく、道路際になる百年桜、道路沿いの古木(サザン



JR 松戸駅での賛同署名活動『松戸よみうり』提供

カ・カエデ・キンモクセイ等)、広場の古木(エノキ・ケヤキ・クヌギ等)、大半が失なわれる梅林、排気ガスや騒音による環境や生態系への影響、振動による江戸時代の門や蔵への影響、広場で遊ぶ子どもたちの安全など解決していかなければならないことが山積みです。

合意書調印後の合同記者会見で、川井市長は「関さんの森道路建設にあたっては、市と関さんと市民グループの協働で道路づくりを進めたい」と発言しました。同時に関さんからは「市と市民の皆さんと一っしょに楽しく道づくりが出来て、ここを通る人にも気持ちの良い道路を作りたい」との発言がありました。

■最後まで見守り、ご支援を！

「関さんの森を育む会」「関さんの森エコミュージアム」そして森半分の持ち主である「埼玉県生態系保護協会」は関さんと協力して「関さんの森」にふさわしい道路づくりを進めていきたいと思っています。関さんの森道路建設は、まだこれからです。これからも多くの市民に支えられた取組みとするために、2月28日(土)午後には、流通経済大学・新松戸校舎で「関さんの森」スライド&トークを開催し、250人ほどの市民が参加されました。3月29日(日)には、「第2回 みどりと生きるまちづくりフェスタ～関さんの森の里山風景を未来へ～」を開催し、森の写真展、森の展覧会、森の音楽会、森のご馳走会、森の即売会、まちウォッチング等々盛りだくさんの取組みが行われ、たくさんの市民が参加されました。

松戸市道ができるまでには、今後2年位かかりますので、最後まで皆さまの暖かいご支援をよろしくお願いします。

関さんの森を育む会 武笠紀子



合意文書に調印する川井市長と関美智子さん
『松戸よみうり』提供

●里山は環境教育やケア・憩いの公共空間に

2月5日の「基本合意書」調印後、地権者の関 美智子さん、啓子さん姉妹は「関さんの森エコミュージアム」に関係する市民宛に以下のような感謝と今後の決意を述べています。

強制収用手続きが始まってからというもの、長く厳しい闘いでした。署名活動、立ち入り調査の際の抗議行動、シンポジウムやフォーラムなどのイベント、挙げればきりのないほど多様な活動で、里山を守っていただき、誠にありがとうございました。筆舌に尽くしがたく、感謝いたしております。譲歩を重ねざるを得ず、守られる里山は小さくなってしまいますが、それでもひとかたまりの里山が、みなさまのご支援のおかげで残ります。里山は環境教育やケアや憩いの公共空間として生き続けることになります。

未来の子どもたちのためにこの里山が元気な状態でのこるように、エコミュージアムの確立と発展に、引き続きご支援をたまわりたくお願い申し上げます。

まさきにお礼メールを打つべきでしたが、美智子も啓子も合意書作成の詰めの段階で体調を崩し、調印後ほっとしたためか風邪の高熱に悩まされ、送信が遅れました。ご容赦くださいませ。

関 美智子 啓子

●たくさんの人の思いが共有された

「関さんの森」を貫通する都市計画道路が作られるそう、大変だ、何とかしなきゃと思った市民たちは、同じ思いの人たちへ手を差しのべ、手を組んだ。そして、中核である「関さんの森を育む会」や「エコミュージアム」の少し外側の活動を担うために、数回の相談会を経て「関さんの森を守る市民応援団」を発足させた。

応援団事務局会議は効果的な活動を求めて議論百出。先ず手始めは見て、わかるをモットーとしたチラシ作りからスタート。できたチラシは迂回道路案の署名用紙と一緒にドサッと受け取り、ご近所や友人・知人、知れる限りの人に理解と署名を依頼しながら、さらにその先の人たちへも広がるようお願いしてお渡した。これまで経験した署名活動の中では、一番と言えるほどの手ごたえがあった。

中でも駅頭での賛同署名活動では、市民みずからが署名をするために寄ってきて、署名してくださること

が多かったことだ。特に、テレビで取り上げられた後は顕著であり、マスコミの影響力の大きさを思い知った。マスコミの報道はおおむね私たちの主張に好意的であったが、これが反対であったらと思うと怖い。報道にぶれない、ものを見る確かな目を持つことの大切さを痛感した。

「譲歩に譲歩を重ねたとしても」最悪の事態は避けられたが、応援団としてはこれからも市側の対応を監視する活動が残っている。

市民応援団 鈴木とき子（東平賀在住）

●関さんの森を見守り続けたい！

世界や日本各地の環境が、大きな力によって有無を言わず壊されていくのに憤りを感じていましたが、こんな身近でそんなことが起きるなんて！強制収用にための立ち入り調査が始まった日、矢も楯もたまらず関さんの森に駆けつけました。

市民応援団が取り組んだ署名活動では、主に子どもたちを通じての若いお母さんたちに協力を求め、多くの署名を集めることができました。「子どものための貴重な自然が壊されるのはいやだ」「自分の家に無理やり道路が通ったらどんなにつらいだろう」と、理論や理屈ではなく自分の痛みとして真剣に受けとめる姿に感動しました。駅頭や繁華街での署名活動でも、市民が積極的に署名に協力していただいたことに感動しました。

話し合い解決の方向が見えた時、他県で同じような問題に取り組んだ経験のある友人に報告しました。「こういうことはね、ずうっと注意して見張っていないとダメなんだよ。相手が出方を変えて、どんどん事態が変わっていくこともあるからね」この彼女の言葉を心に置いて、関さんの森を見守り続けたいと思います。

市民応援団 梨本民子（牧の原在住）



来年 11 月の松戸市議選・1000 人の会公認候補予定者として佐藤実さんを擁立へ！

1 月 18 日に開催されました 1000 人の会第 12 回総会で、来年 11 月に行われる松戸市議選において、吉野信次さんに変わって、佐藤 実さん（1000 人の会政策担当、55 歳）を市議選の候補予定者として公認することを確認しました。この確認を受けて、市議選プロジェクト準備会（2 月 7 日）、3 月 7 日に第 1 回目のプロジェクトを開催し、今年中に取り組む活動と役割分担を確認しました。

①佐藤さんを紹介できるパンフ（第 1 次パンフ）等の作成

・佐藤さんを知ってもらうための人物紹介や佐藤さんの決意・抱負などを入れたパンフを 4 月末メドに作成。第 2 次パンフは、来年春頃に作成。

②駅頭等での宣伝活動の開始に向けたのぼり旗の作成と駅頭宣伝

・駅頭宣伝を 5 月から複数駅で実行できるように、のぼり旗を 4 月末までに作成。

・駅頭宣伝は当面、新八柱駅、常盤平駅、五香駅の 3 駅からスタート。

③牧の原・常盤平地域での活動を推進

・佐藤 実さんは牧の原団地（分譲住宅）に在住。牧の原・常盤平地域を重点地域にして、地域活動に取り組む。そのための地域プロジェクトを作る。

④ 1000 人の会会員や協力者への支援要請活動をスタート

・総会確認を踏まえ、佐藤 実さんを多くの会員・協力者に紹介をし、引き続きの支援を要請する。

⑤これらの活動を担う役割分担

・プロジェクトに関するメンバーは、市議選プロジェクトメンバー 11 名、1000 人の会運営委員 10 名で構成します。

・代表 渡辺一夫さん 事務局長 吉野信次さん 会計 神林成光さん
パンフ作成責任者（第 1 次・第 2 次合わせて）西村佑紘さん 他です。

⑥市議選プロジェクトの財政確立のために、カンパ要請の開始！

今年中のプロジェクト活動の予算のために、独自の財政確立をめざします。大変な経済情勢の中ですが、1000 人の会の命運をかけた市議選前半の活動資金です。活動予定からして 40 万～50 万円の資金が求められます。同封の郵便振替で送金いただけますよう、重ねてお願いします。ご協力ください。

市議選プロジェクト代表 渡辺一夫
市民自治をめざす 1000 人の会代表 今川和子

佐藤 実さん（1000 人の会政策担当）の決意

昨年 1 月の「1000 人の会第 11 回総会」で、2010 年秋の松戸市議選に向けた候補者擁立の方向が提案されました。3 月に吉野信次さんから、次期松戸市議選の候補者について相談したいとの連絡を受けましたが、会うまでは即辞退の意向でした。現在働いている事業所の責任者であり、横浜の職場から赴任し 1 年経過したばかりの状況で、職場の仲間を見捨てるような事はできないとの思いが強く働いていました。

● 1000 人の会の活動を継承しなければ、と

吉野信次さんは、2 期 8 年間の市議会活動を通じて 47 万人が暮らす松戸市に「市民参加・市民合意による安心して暮らせるまちづくり」をめざし、困難な課題に積極的に取り組んできました。「1000 人の会」を中心とした市民活動と連携し、様々な変革と実績を残してこられたことは、多くの仲間が認めることだと思います。しかし、吉野さんの自己犠牲ともいえる行動と心痛が重なり、体調不良（ガン）から入院・手術という経過があったことも衆知の事実です。

このような経緯の中で会った際、吉野信次さんは公人から離れ想いを自由に発言できる環境で積極的に活動したいこと、議会に代表が不在であることによる行政の情報量不足と具体的な提案力の欠如を痛感している等々の思いを吐露されました。議会活動から離れても市民自治をめざす一途な思いがひしひしと伝わり、私の気持ちが揺らぎついに検討させて下さいと返答しました。

その後、5 回にわたり市議選候補の懇談会が開催され、延べ 50 人ほどの参加で活発な論議が行われました。2 回目の懇談会で、1000 人の会の活動を継続するためにも立候補を決意することを表明させていただきました。その後、プロフィールの作成や政策立案、私生活に於ける経済問題など多くの課題についてアドバイスを頂き、今年 1 月の「市民自治をめざす 1000 人の会第 12 回総会」で、来年 11 月の市議選候補者として紹介されました。総会での論議の結果「推薦」から「公認」となり、早期に市議選プロジェクトを立ち上げ活動することが確認されました。

● 持続可能な社会づくりを！

私は、1953 年 10 月岩手県に生まれました。県北の内陸部で大工仕事をする父親の 9 人兄弟の末っ子として、大家族のなかで育てられました。母親が 45 歳と高齢出産だったこともあり、母乳が少なく、ヤギの乳を飲ませてもらったことを聞きました。生まれてから 55 歳まで病気をしたこと

がないのは、ヤギの乳が丈夫な身体を造る基礎となったかも知れないと今、ヤギの乳を与えてくれた母親に感謝しています。

総勢 180 人ほどの町立南山形小・中学校で学び、卒業までの 15 年間は山奥の山村で暮らしました。高校生活は盛岡の新聞販売店の寮に住み込み、新聞配達と勉強の生活で 30 人程の仲間との共同生活でした。高校卒業と同時に上京、夜間部の大学で機械工学を専攻し、その間に学生結婚をして 21 歳で父親となりました。家庭と仕事と勉強の三重生活で、大学の卒業まで 7 年間の歳月を要しました。大学生生活 7 年目の卒論研究の時に 2 人目の子が誕生しました。

大学卒業後は産業機械関係の設計施工等の業務を約 20 年間、その後、公共施設の環境インフラ設備関係の運転維持管理業務や新規建設工事施工監理等の業務を経て、現在は流山市にある浄水場に勤務し、24 時間 365 日休むことなく水道水を造り続ける運転管理業務を行っています。これまでの実務経験等から「人間は、循環する環境から独立することが出来ない（因果応報）。循環する環境を大切にすることが持続可能な社会の道である」ということを学んでいます。

● 1000 人の会が目標とする「市民自治のまちづくり」をめざします

①「公認」を自覚し、市民活動・市民連帯の輪を拡大します。

② 人々に学び、人々と一緒に計画し、人々が持っている力で始めます。

③「市民自治をめざす 1000 人の会」のめざす理念を継承・拡大します（自立した市民社会）。

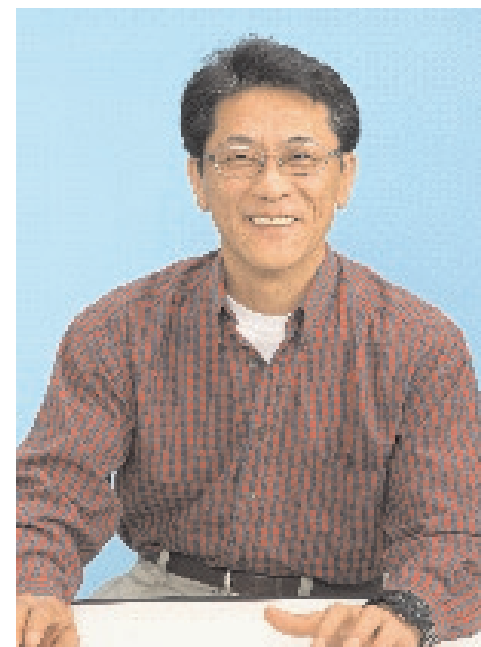
・一人ひとりを大切にし、憲法 9 条を活かした平和なまちづくり（人権・平和の尊重）

・環境と調和したまちづくり（持続可能な社会・低炭素社会）

・次世代を育み育てるまちづくり（教育・将来世代に責任を持つ）

・安心して働き・暮らせるまちづくり（命と雇用を守る）

佐藤 実



今こそ、裁判員制度はいらない！の大きな声を！

裁判員制度が始まるまで2ヶ月足らずとなりました。今年5月21日以降に起訴された事件が対象なので、実際に市民が参加する裁判が開かれるのは7月以降になる見通しだということです。

昨年11月末、25万5千人の候補者に通知が発送され、試算によると今年中に8千人の人が裁判員になる見込みだといいます。

■問題だらけの制度

ここきて、思想・信条を理由とした裁判員辞退が話題になりだしています。宗教に関する多くの市民が悩んでいるのだそうです。裁判員法や法務省の政令は「思想・信条」や「宗教上の教え」を理由にした辞退は明文化されていません。こうした理由で辞退を認めれば、市民の意見を幅広く裁判に反映させるという制度の趣旨を損ないかねないし、結局のところ認めるかどうかは裁判官の判断に委ねられることになるようです。

また、裁判員制度には、モニターが導入されます。そこに写し出される生々しい証拠写真に、なれない裁判員が耐えられるかどうかということも問題になりだしています。さらに、昨年12月には、被害者参加制度も始まっています。被害者遺族の裁判員に与える影響は？被害者の感情の受けとめ方が裁判員によって違うと、その量刑の判断も違ってくるのではないかと等々、今になっても新しい問題や疑問が次々と出てきています。

■これからが正念場

このような中で、千葉県内でうれしい動きもありました。1月22日、千葉県弁護士会では、臨時総会が開催され「裁判員制度の延期を求める決議」が採択されました。また、3月22日には、千葉市内のホテルプラザなの花で「裁判員制度はいらない！千葉集会」が開催され、全県的なネットワークが生まれだしています。お隣の埼玉県弁護士会の会長選挙(2月)では、「弁護士激増・裁判員制度は人権の危機」と訴えられた裁判員制度反対派の小出重義弁護士が 당선されています。

私たち「裁判員制度を考える会・松戸」では、県内主要駅頭での駅頭キャラバンの一環として、東葛6市の主要駅頭での「裁判員制度はいらない！キャンペーン」を実施します。



- 3月29日(日)
午前11時30分から午後1時まで 野田市内(イオン前)
午後3時から4時30分まで TX おおたかの森駅
- 4月4日(土)
午前11時30分から午後1時まで JR我孫子駅(南口)
午後3時から4時30分まで 北総線新鎌ヶ谷駅
- 4月11日(土)
午前11時30分から午後1時まで JR柏駅(西口)
午後3時から4時30分まで JR松戸駅(東口)
- 4月11日(土)
午後6時から 会場/松戸市民会館202号室
「問題だらけの裁判員制度～廃止の世論を」
講師/蒲田孝代弁護士
- 4月21日(火)
午後6時開場 6時30分開会
会場/日比谷野外音楽堂
裁判員制度実施をみんなで阻止しよう！
日比谷全国集会と銀座デモ
(松戸方面からの参加者は、午後5時
JR松戸駅5.6番線 北千住駅寄り集合)

市民に迷惑をかける裁判員制度を葬り去るまで共に行動していきましょう。多くの方々の参加を期待します。

裁判員制度を考える会・松戸 今川和子

「格差社会」と「貧困」が社会問題化して久しい

格差は常に存在するが、現在は政策放棄のなかで下方に益々拡大し、個人の努力では這い上がるチャンスを手放さない状況がある。少し前、『300万円で暮らす方法』の本がベストセラーになったが、今はそれさえ夢となった。反貧困ネットワークの湯浅 誠さんは「滑り台社会」と表現するが、まさしくその通りである。

●自己責任論のまやかし

現在に繋がる格差社会を最初に問題提起したのは佐藤俊樹著『不平等社会日本 さようなら総中流』（2000年刊 中公新書）。日本で1955年以降10年ごとに行われている「社会階層と社会移動全国調査」（略称SSM調査）を分析して報告した。内容を一言でいうと「努力すればなんとかなる」という説教はまやかしであるという結論である。

説教に対する「痛烈な反論が、1つは、女性の側からあがるはずである。——スタート地点が平等だなんてとんでもない。……実績主義の3分の2を占める男性の地位は、『性別』という障壁に守られた、虚構の『実績』なのだ、と」。性別は、女性が多く占めていた非正規労働者の地位を“不動”のものにもしてきた。

「戦後の日本では選抜競争が平等な競争であると信じられてきた。そのなかで…生まれによる有利不利が発生すれば、…既得権が『実績』化し『実績』が既得権化するメカニズムが働く」。

既得権化の具体例は世襲政治家、特に最近の歴代首相就任者を見れば明らかである。その「既得権者」は相も変わらず「努力すればなんとかなる」「チャンスを与えているのだから自己責任である」と言う。

本は反論する。「選抜社会をうまく運営していくためには、『敗者』とされた人々が、意欲と希望と社会への信頼を失わないようにしなければならない。……そこには敗者を『再加熱』するしくみが欠かせない。」それで「努力すればなんとかなる」と扇動し、格差と差別の拡大を自己責任とし受忍させる。

●「既得権」を持たない者の実態はどうだろうか

「格差」は様々な言葉に続けて使われる。それらの格差はリンクし、なかなか砕けない。例えば貧困は住宅問題を引き起こし、育児を困難にし、教育・訓練を受けさせる機会を奪う。育児は労働を不規則にし、ワー

キングプアとなっていく。ニートの子供たちは就職が困難になり、雇用契約関係の不安定を伴い、フリーターとなっていく。一方、「既得権」を持つ子供たちは、生活不安を知らずに教育を受け、就職する。住宅と財産は譲り受ける。

●ではどのような解決を目指すのか

「痛烈な反論者」の女性労働者は「均等待遇」を要求し続けている。その運動の経緯と到達点、今後の課題を共有することは大きなヒントを付与してくれるだろう。

格差のリンクを断ち切るための社会制度を拡大・拡充させる具体的要求が必要となる。生活が困窮状態におかれた時、労働者・市民の衣・食・住を保障するのは国の役割である。なぜなら困窮状態から脱出に向けて確保するための最低限の条件だからである。

とりわけ公営住宅の割合が極端に低い日本においては、ハウジングプアの解決と雇用創出のために、利権を排除した公共事業で公営住宅建設や改築が進められなければならない。これで“安心”が保証される

教育において、団塊の世代は「詰め込み教育」が行われた。産業界の期待する労働力養成のためだった。現在の「ゆとり教育」は、世代に対して国家も産業界も期待しないということの裏返しである。一方、「既得権者」の子供たちだけが教育を受ける権利を保障され、「勝組」を準備する。ニートを登場させないために教育の無償化による機会均等の保証を政府に要求しなければならない。そうすると“希望”が確保される。

自己責任という分断策動に抗し、“安心”と“希望”に向けて、お互いの尊厳、共生、未来のための運動を作り出そう。

管理職ユニオン 千葉 茂



3月定例会を傍聴して

市長の悲鳴？恫喝？発言は許されない！

3月定例会のハイライトは、2月25日の市立病院建設特別委員会の質疑、修正案の提案と原案の否決、27日の本会議における各会派の熱のこもった討論でした。この10年間で始めてみる光景でした。市長が提案してきた『新病院整備基本計画検討案』と66街区単独と66+65街区の事業費・財源比較、新たな用地購入を必要とした経過などに対して、多くの問題点を指摘する論議がされました。

『検討案』によれば、新病院は東葛北部二次保健医療圏の中核病院として、地域医療支援病院やがん診療連携拠点病院とする。担うべき領域は、高度医療及び救急医療、小児医療、周産期医療、がん診療、感染症医療、災害医療などの政策医療を主とする。病床規模は600床。1日あたりの外来患者数は900名。地下1階、地上14階建て。延床面積は45000㎡。建設事業費は、232億1530万円。財源内訳は、県補助金19億3960万円、企業債161億7150万円。病院売却代金（現上本郷）20億円。市財源31億420万円。企業債の内建物は、5年据置き30年償還、利率3%。

25日の委員会、質疑後の採決では、7名の連名で追

加用地の取得提案に反対の修正案が提出されました。採決の結果、保守系会派・松政クラブの2名が市長提案に賛成のみで、7名が修正案に賛成で原案は否決されたのです。27日の本会議では、これまで市長を支持してきた保守系の市民クラブ（8人）や公明党（10人）、民主党と保守系がドッキングしてできた政策グループまつど未来（8人）などの会派までが、市長提案の問題点を指摘し、追加用地の取得を削除する修正案を支持する論陣をはったのです。

25日の特別委員会終了直前、議案が否決されたことで市長からびっくりする発言が飛び出しました。「総経費が8億円増え、工期が長くなってもよいのですか」「どんなに負担増になってもよいのですか」と悲鳴とも恫喝とも受け止められる暴言が吐き捨てられたのです。多くの議員が啞然とされたことでしょう。川井市長は、これまで議会から「ノー」を突きつけられた経験がないために、動転したのでしょうか。長期政権の腐敗が明らかになった一場面でした。議員と行政が緊張感を持って質疑し、議会は本来の意思決定機関としての機能をとりもどす時だと実感しました。

吉野信次

政策研究&イベント掲示板

●活かせ9条・松戸ネット第5回総会と記念講演会

▼日時／4月12日（日）午後1時30分から
▼会場／稔台市民センターホール
▼講師／伊藤千尋さん（朝日新聞記者）
▼主催・連絡先／活かせ9条・松戸ネット（365-9462・久保田）

●新松戸チャリティーフリーマーケット

▼日時／4月26日（日）午前10時から午後3時まで

▼会場／新松戸中央公園、1000人の会も出店（川場のコンニャクと東風さん宅の竹の子他）
▼主催／チャリティーフリーマーケット実行委員会（341-3909・あらかると）

●アジアを結ぶ平和のひろば～あんにょんハイサイわくわくコンサート

▼日時／5月2日（土）午後3時から7時
▼会場／上野公園野外ステージ（水上音楽堂）
▼入場料／前売り1500円
▼主催／わくわくコンサート実行委員会（03-5680-3017・尾澤）

●2009年松戸憲法記念日の集い

▼日時／5月3日（日）午後2時から5時30分
▼会場／松戸市民会館ホール
▼参加費／500円

▼主催／09年松戸憲法記念日の集い実行委員会（346-0906・榎本）

●出前講座「生活保護制度の内容及と松戸市の現状」

▼日時／5月15日（金、予定）午後6時30分から

▼会場／ほくとビル4F会議室

▼講師／松戸市福祉事務所職員

▼主催／1000人の会（360-6064・吉野）

●20周年記念はるかぜ10thコンサート～創作ミュージカル「幸せ谷いのちの森物語」

▼日時／5月16日（土）午後1時から、午後5時から

▼会場／松戸森のホール21小ホール

▼入場料／前売り1700円（大人）

▼主催／東葛合唱団はるかぜ（384-4759・太田）

●ペシャワール会・伊藤和也さんの追悼写真展

▼日時／5月26日（火）から31日（日）まで、午前10時から午後6時

▼会場／松戸文化ホール

▼主催／ペシャワール会（362-3064・遠山）

●介護保険・松戸市民ネットワーク総会&学習会

▼日時／5月30日（土）午後1時から4時30分

▼会場／女性センター・研修室

▼テーマ／変わった介護保険制度と松戸市の対応

▼講師／松戸市介護保険課職員

▼主催／介護保険・松戸市民ネットワーク（386-2544・倉持）

●ウォッチング「まつさと」～野田・関宿を歩く

▼日時／6月27日（土）午前8時15分集合

▼集合場所／東武野田線・柏駅改札口前

▼参加費／実費

▼主催／1000人の会・ウォッチング「まつさと」（047-497-5008・龍）